

第5学年 社会科学習指導案

日 時 平成18年10月6日(金)5校時
児 童 北上市立飯豊小学校 5年3組
授業者 遠藤 公

1 単元名

工業生産を支える人々
「世界に広がる自動車工場」

2 単元主題の理由

(1) 教材について

本単元は、社会科の第5学年の目標の(1)「我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展に関心をもつようにする。」(3)「社会的事象を具体的に調査し、地図・統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味について考える力を育てるようにする。」を受けて設定されている。

ここでは、「様々な工業製品が国民生活を支えていること」「我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など」「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働き」の大きく3つを学習の中で調べる対象としている。これらを実際的な調査活動を行ったり、各種の地図や統計などを活用したりしていくことを通して、我が国の工業生産の特色や支える人々の様子をとらえさせるようにし、また、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えることができるようにしていく。

(2) 児童について

学級の子ども達は明るく素直で、学習に対して真面目に取り組もうとする。学習中は、話を集中して聞く姿勢が身に付いてきている。その反面、話す面では、自分の考えが頭に浮かんでいても自信がもてずに、周りの子ども達が手を挙げてから自分も挙げたり、小さな声での発表になったりするような様子が日常に見られる。また、班の代表で発表するような場面でも、はっきりと話すことのできる一部の児童に頼りがちな傾向にある。

これまで子ども達は、3年生では、校区探検、買い物調べ、お店調べ、4年生では、消防施設調べ、消防署や清掃事業所、水道事業所等の施設見学等の体験的な活動を通じた学習を行ってきた。5年生の1学期には、日本すべての都道府県名に触れ、名前を聞いたことがあったり自分が実際に行ったことのある都道府県の位置を調べて覚える学習を行っている。これまでの学習から自分たちを取り巻く社会を見る目が少しずつ広がってきてはいる。しかし、調べる対象が身近な場所から離れれば離れるほど、資料の中にある情報から学習することが多くなり、社会科への関心、資料を活用する力、思考判断する力のすべてにおいて差が広がっているようにも感じられる。それは、資料を読みとったり、2つ以上の物事を比較して考えたりすることが苦手である子ども達にさらに苦手である感覚を覚えさせてしまっている面が大きい。そのため、本学級の子ども達に対しては、できる限りわかりやすい具体的な資料を使用することや体験的な活動を取り入れながら進めること、何より、考えさせたいポイントをはっきり児童がつかめるような指示や作業にした学習を組む必要があると思われる。

(3) 指導にあたって

自動車は現代の生活においては間違いなく欠かせないものとなっている。子ども達自身も毎日の生活の中で自動車と関わった生活をしている。しかし、自動車の色や大小の違いこそわかるものの車種などに関心の高い児童はあまり多くない。身近であって意外に知らないものである。そこで自分の家の自動車の車種や色など全員が参加できるようなところから調べたり、特殊な役割をもった自動車を調べさせたり、また自動車のカタログや広告等を集めたりする活動をしながら自動車への関心を高めていきたい。自動車がどのようにつくられているかを調べたり働く人々の努力や工夫を考えたりしたことを、自動車工場見学を通して実際に目や耳で確かめさせ、学習内容を深めさせていきたい。また、海外との関わりの中で自動車を含めた工業生産が行われていることなど、子ども達にとって調べにくい内容については、できる限り見やすい資料の提示をしたり視聴覚教材を活用

するなどをして理解や思考を助けられるようにしたい。

本時は、与えられた資料をもとにして海外生産が増加してきている理由を貿易の均衡と合わせて考える場面である。資料を読み取る力の差が大きな本児童の実態から、導入時のグラフを全体で考える活動として、大きな変化を全員がつかめるようにしたい。また、学習の中心である話し合い活動では、既習事項やキーワードをもとに自分たちで、海外生産のよさについて考えさせたい。また、よさの裏にある貿易摩擦については、日常ニュース等で流れてはいるものの児童には実感のない事象であると考え、児童にできるだけわかるような面を取り上げ理解させていきたい。

3 単元の目標

- ・工業がさかんな地域の様子を具体的に調べ、工業生産に携わる人々が生産を高める工夫・努力をしていることや、日本の工業の現状と課題をとらえることができる。
- ・工業生産に関する写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、国民生活を支える工業生産の意味や、運輸・貿易のはたらきについて関連づけながら考えることができる。

4 単元の評価規準

【社会事象への関心・意欲・態度】

日本の工業生産について関心をもって意欲的に調べ、工業製品を生産する仕事の大切さを指摘しようとする。

【社会的な思考・判断】

工業生産に携わる人々の生産を高める工夫・努力や、工業生産と貿易・運輸のはたらきとの関わりについて考えることができる。

【観察・資料活用の技能・表現】

工業生産に関する写真や地図、統計などの資料を、目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取ることができる。

【社会事象についての知識・理解】

工業がさかんな地域の様子や、日本の工業の現状と課題がわかる。

5 指導計画

工業生産を支える人々（25時間）

時数	中・小単元	ね ら い	学 習 活 動
1	オリエンテーション	自動車の福祉車両の観察を通して、人々のくらしを豊かにする工業について興味や関心を持ち、調べてみようとする意欲をもつことができるようにする。	自動車の福祉車両を観察して、気がついたことを書き出す。 福祉車両には、人々のどんな願いが込められているのかを話し合う。
13	1 自動車工場をたずねて（13時間） (1)自動車づくりにはげむ人々	自動車の組み立てとシートづくりの仕事について調べ、工場で働く人たちの工夫や努力、願いをとらえるとともに、自動車工場と関連工場との結びつきについて気づくことができるようにする。	自動車づくりについて疑問に思ったことを発表し合い、自動車工場の見学の計画を立てる。 自動車工場の配置の工夫や、そこに工場がつくられたわけを考える。 自動車ができるまでの工程や、工場で働く人たちの工夫や努力、願いについて調べる。 働く人や地域の環境に配慮した自動車生産の工夫について調べる。 部品のシートをつくる工場について調べ、関連工場と自動車工場との結びつきについて考える。 関連工場で働く人たちの工夫や努力、思いについて調べる。
	(2)自動車がとどくまで	完成した自動車を運ぶ仕事について調べ、輸送に携わる人たちの工夫や努力、願いをとらえるとともに、工業生産を支える運輸のはたらきに気づくことができるようにする。	新車を船に積み込む仕事や、キャリアカーで運ぶ仕事の様子を調べる。 自動車の輸送に携わる人たちの工夫や努力、思いについて考える。 全国各地を結ぶ交通網の広がりや、運輸の仕事に果たす役割を調べる。

	(3)これからの自動車づくり	自動車に乗る人たちの願いについて調べ、「安全で、人や環境にやさしい」自動車づくりが進められていることに気づくことができるようにする。	自動車を利用する人たちが、どんな車に乗りたいと考えているかを調べ、発表し合う。「安全で、人や環境にやさしい」自動車づくりの工夫や研究について調べる。これからの自動車づくりについて、自分の考えをまとめる。
4 本時 2/4	2 世界とつながる自動車（4時間）	貿易による世界各国との結びつきについて調べ、その特色や問題をとらえることから、貿易の進め方について考えをもつことができるようにする。	自動車を外国へ輸送する仕事について調べる。地図と地球儀の違いや、地球儀を使って、世界各国の位置や日本からの距離・方位を調べる。日本の自動車の輸出や海外での生産の様子を調べ、これからの日本の自動車生産について話し合う。日本の貿易の特色や問題を調べ、これからの貿易の進め方について話し合う。
5	3 工業の今と未来（5時間） (1)日本の工業の特色	工業のさかんな地域や、大工場と中小工場での生産の違いについて調べ、日本の工業の特色をとらえることができるようにする。	身の回りにある工業製品を調べ、工業の種類ごとに分類する。日本の工業のさかんな地域を調べ、そのわけを考える。大工場と中小工場の生産の違いや、中小工場の抱える問題と解決のための努力について調べる。
	(2)これからの工業生産	工業の発達と自分たちのくらしの変化とのつながりに気づき、これからの工業生産の進め方について考えをもつことができるようにする。	工業の発達によって、人々のくらしがどのように変わってきたかを調べる。これからの工業生産について、自分の考えをまとめて発表し合う。
1	自動車すごろくをつくらう 回る絵本をつくらう	これまでの学習をふり返り、自動車が生産されて自分たちのもとに届くまでの様子などを、すごろくや回る絵本にまとめることができるようにする。	テーマを決めて作品づくりの計画を立て、「自動車すごろく」や「回る絵本」を作る。お互いの作品を見合い、作品のよさや工夫について意見を交換し合う。
1	はってん物づくりに情熱をかけた人たちに学ぼう	日本のすぐれた工業技術を生み出してきた先人の努力や思いを調べ、人々のくらしを豊かにする物づくりの意味や、その人たちの生き方から学べることについて考えることができるようにする。	日本の工業の歩みを支えてきた人たちが生み出した技術や製品、物づくりにかけた情熱などについて調べる。物づくりが人々のくらしに果たしてきた役割や、その人たちの生き方から学べることについて考え合う。

6 本時の指導

(1) 目標

自動車の国内や海外の生産台数の変化を読みとり、自動車を海外で生産するよさについて考えることができる。

(2) 具体の評価規準

評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への支援
日本が自動車を海外で生産するわけをよさの視点から考えることができる。 (社会的な思考・判断)	自動車の海外生産が行われているわけを根拠をもとに考えることができる。(話し合い、発言)	自動車の海外生産が行われているわけを考えることができる。(話し合い、発言)	地図などをもとにして「輸送距離」などの考えやすい視点から予想をさせる。
日本の自動車の国内また海外での生産台数が変化していることをグラフから読み取ることができる。 (観察・資料活用の技能表現)	自動車の国内や海外の生産台数の変化を関連づけて読み取ることができる。(発言)	自動車の国内や海外の生産台数の変化を読み取ることができる。(発言)	グラフが右上がりになっているか右下がりになっているかを確認させる。

(3) 展開

	学 習 活 動	指導の留意点
導 入	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 国内生産と輸出，海外生産のグラフの変化を読む。</p> <p>3 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>自動車の海外生産が増えているのはなぜだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は自動車生産がさかんであることや自動車生産を通してたくさんの国々とつながりを持っていることを確認する。 ・日本車は海外でも人気があることを資料を用いて伝える。その事実から国内生産や輸出が1985年まで年々増えていることを考えさせる。その際、「国内生産」「輸出」の言葉の意味を簡単に確認して進める。 ・1985年から後の国内生産や輸出台数の変化はどうなっていくかを予想させ、減少していくことを読みとらせる。 ・海外生産の変化を表したグラフを提示し、国内生産や輸出の変化とは逆の変化を示していることに着目させる。また、自動車の生産台数が減っているのではなく、海外生産を増やしてきていることを確認する。 ・海外生産工場がいろいろな国にあることを地図で確認する。 ・日本車であるのに海外で生産するのが増えているのはなぜかを考えることを課題としていくことを知らせる。 <p>評（資料から変化を読み取ることができたか。）</p>
展 開	<p>4 海外で生産した場合のよさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国に運ぶ時間が少なくてすむ。 ・外国に運ぶお金がかからない。 ・自動車の材料が手に入れやすい。 ・給料が安くてすむ。 ・働く人の数が多い。 ・工場を建てる土地が広い。 ・日本にはない車を作れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループで話し合いをさせ、よさの予想を紙に書かせる。話し合いが進まないグループにはこれまで調べてきた自動車工場の既習内容から考えさせたり、材料や輸送などのキーワードから話し合わせるように支援する。 ・書かせた紙は黒板に貼らせ、それを教師がグルーピングをする。どのような観点でグルーピングをしたかを児童に考えさせる。 ・児童から出た予想を資料をもとに検証する。 <p>評（海外生産のよさを考えることができたか。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証の後に、賃金の面から見たときには、どの国も日本と比較して安いわけではないということから、よさの面からのみで海外生産を行っているのではないことを気づかせる。 ・海外生産が進む前には貿易摩擦「日本たたき」があったことを資料として提示し、海外生産は日本にとってのメリットだけで始めたのではないことを考えさせ、外国のことを考えた理由があることに気づかせる。
25分		

<p>展 開 25 分</p>	<p>5 これから日本はどんなことに気をつけて貿易を行っていけばよいかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の国のものだけ売らない。 ・その国のものも買う。 ・その国の人に働いてもらう。 ・話し合いながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本がよい自動車をたくさん売りたいと思っているのと同じように、外国でもたくさん車を売りたいと思っていることなど、一方向でなくお互いの方向で考えていくのが貿易のやり方であることを知らせる。 ・海外生産することで、現地雇用や部品調達等により貿易摩擦を緩和してきたことを簡単に伝える。
<p>終 末 10 分</p>	<p>6 海外工場の方のお話を聞き、どのようなことを心がけて貿易を行っているかを知る。</p> <p>7 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本のことだけでなく、外国のことを考えたつりあいのとれた貿易を行うため。</p> </div> <p>8 次の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外生産で力を入れていることや気をつけていること、苦労していることなどのお話を聞く。（録音） ・自分の国のことだけでなくお互いのことを考えて貿易をしていることを伝える。 ・自動車のほかにどんな製品が輸出されたり、また輸入をしているかを考えることを知らせる。

7 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>国内生産・輸出・海外生産 を表す折れ線グラフ</p> </div> <p>日本車は外国でも大人気</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内生産はへっている ・輸出もへっている ・海外生産がふえている </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自動車の海外生産が増えているのは なぜだろうか。</p> </div> <p>輸送 <input style="width: 40px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text"/></p> <p>お金 <input style="width: 40px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text"/></p> <p>働く人 <input style="width: 40px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text"/></p> <p>仕事 <input style="width: 40px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text"/></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>資料</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>日本のことだけでなく、外国のことを考 えたつりあいのとれた貿易を行うため。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の国のものだけを売らない。 ・外国のものも買う。 ・話し合って進める。 </div>
--	--	---

授業構想

「国内生産」「輸出」「海外生産」の3つのグラフの相関関係を読み取ることは児童にとって難しい。また、このグラフからその事実を読み取ったとしても、そこから海外生産がどのように行われているかや貿易の問題にはつなげられないと思われる。そこで、貿易摩擦が起こっている事実から、自分たちが日本の立場からどうすればよいかと考えるような流れに学習を組み立てた方が海外生産を行う理由が納得しやすいのではないかと考える。

本時の展開

	学 習 活 動	指導の留意点
導 入	1 前時の学習を想起する。 2 国内生産や輸出台数のグラフを読み、続きがどうなっているかを考える。 ・増えている。 ・これからどんどん増えていく。 ・変わらない。 3 課題を確認する。 日本はどうやって貿易のつりあいをとったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は自動車生産がさかんであることや自動車生産を通してたくさんの国々をつながりを持っていることを確認する。 ・1985年までの国内生産や輸出台数のグラフからこの先はどうなっていくかを予想させる。 ・「国内生産」「輸出」「海外生産」の言葉の意味を確認して進める。 ・予想をさせた後に、グラフの続きを示し、減っていくことを表す。 ・グラフが減っていくのは貿易の不均衡により海外から不満が起こったことを投げかける。
展 開	4 貿易のつりあいをとるためにどんな方法があるかを班で話し合う。 世界の国々の不満 ・どんどん日本から自動車が売られ、自分の国の部品が売れない。 ・売れないから仕事がなくなった。 5 班で話し合ったことを全体で発表し合う。 ・あまり売らないようにする。 ・その国の自動車も買う。 ・その国の部品を使う。 ・その国の人を雇う。 6 海外生産のグラフを読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は世界の国々の立場になり、不満を児童に説明する。児童は日本の立場になり、不均衡を直す方法を話し合わせる。 ・日本も自動車が売れないと困ることを前提にすることを話す。 ・話し合った方法が多少ずれていても考えたことを認める。 ・海外生産のグラフを付けたし、海外生産が増えてきていることを知らせる。 ・海外生産することで、現地雇用や部品調達等により貿易摩擦を緩和してきたことを伝える。
終 末	7 まとめる。 海外生産を行い、世界の国とつりあいのとれた生産や貿易を行うようになった。 8 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P93の資料から、日本の自動車工場が多くあることを理解させる。 ・ただ工場をつくるだけでなく、その国に合わせた方法を取り入れていることも知らせる。 ・自動車のほかにどんな製品が輸出されたり、また輸入をしているかを考えることを知らせる。